

■近角常観 宗教家。真宗大谷派。親鸞の精神を説き、本郷に求道学舎と求道会館を建設、学生・知識人を感化した。

ちかずみじょうかん

初の日刊新聞1870＝ 滋賀県東浅井郡朝日村で、真宗大谷派西源寺の住職近角常隨の長男に生まれる。

明治6年政変 1873＝ 3歳：

強情で内弁慶の一方、父から浄土三部教を書写し、訓読みするように教えられて育ち、

沖縄県編入・1879＝ 9歳：

明治14年政変1881＝11歳：

京都府立尋常中学から、

東本願寺経営の育英教校に学び、真宗大谷派僧で宗教哲学者清沢満之と出会う。

初の対等条約1888＝18歳：

帝国憲法発布1889＝19歳：東本願寺の留学生として上京。開成中学に編入後、第一高等学校に入り、

日清戦争始・1894＝24歳： 沢柳政太郎・高楠順次郎・渡辺海旭・高島米峰らと、大日本仏教青年会結成。

日清戦争終・1895＝25歳：東京帝国大学文科大学哲学科に入学。井上哲次郎に師事する。

白馬会・・・1896＝26歳：白川党宗門改革運動に参加するが、

八幡製鉄始・1897＝27歳：挫折して帰京。＊深刻な煩悶の果てに難病に罹り、手術して退院した際、回心を体験して、信仰を確立。

子規句歌革新1898＝28歳：卒業。巢鴨監獄教诲師問題への対策のため、仏教徒国民同盟会結成に参加。以後、南無阿弥陀仏一筋に、

Bushidou・・・1899＝29歳：同盟会出版部が{政教時報}を創刊、大日本仏教徒同盟会と改称。第2次山県内閣が貴族院に提出した宗教法案に、中心となって反対運動を展開し、成立を阻止。論功行賞で法主から東京本郷の建物を授与される。

ピアノ国産化・1900＝30歳：「信仰之余瀝」。本山の命で、池山栄吉と欧米視察に赴く。留守宅に清沢満之が入り、浩々洞を開始。

田中正造直訴1901＝31歳：ロンドンでは南条文雄に刺激されてマックスミュラー教授を訪問。ベルリンでは、滞在していた姉崎正治・巖谷小波・美濃部達吉らと発起し、現地で元祖“花祭り”を挙行、

教科書疑獄・1902＝32歳：＊急に命じられて、帰国。衆議院出馬を勧められるも固辞。求道学舎を開設し、“日曜講話”を始める。

日比谷公園・1903＝33歳：{政教時報}第105号に、安達憲忠・姉崎正治・小河滋次郎・沢柳政太郎・島地黙雷・白鳥庫吉・高楠順次郎

・南条文雄ら48人の賛助員を得て、「求道会館設立趣意書」を掲載。{政教時報}は第107号で終刊となる。

日露戦争始・1904＝34歳：{求道}を創刊する一方、求道発行所から「信仰問題」、

日露戦争終・1905＝35歳：「懺悔録」。

満鉄発足・・・1906＝36歳：校閲で「歎異鈔」。

アラビヤ創刊・1908＝38歳：長男文常が誕生。親鸞聖人の信仰「人生と信仰」「信仰之余瀝要略」、

伊藤博文暗殺1909＝39歳：「歎異鈔講義」、

韓国併合・・・1910＝40歳：校閲で「唯信鈔・唯信鈔文意」と、次々著作刊行。

明治天皇没・1912＝42歳：

21ヶ条要求・1915＝45歳：＊全国各地の信者・支援からの寄附金のほか、三菱合資会社の桐島像など財界人からの支援を得、武田五一の設計、戸田建設創業者の初代戸田利兵衛の施工で、ようやく求道会館が完成。

本格政党内閣1918＝48歳：求道叢書第1編「慈光録」。

原敬首相暗殺1921＝51歳

水平社結成・1922＝52歳：来日したアインシュタインから神の有無を問われ、説話。{求道}は第18巻第1号をもって終刊。

関東大震災・1923＝53歳：求道講話第1輯「求道と建現」。

護憲三派圧勝1924＝54歳：

国際連盟脱退1933＝63歳：

日中戦争始・1937＝67歳：東洋文庫に勤務していた長男の文常が応召、

健保+総動員 1938＝68歳：武漢作戦に従軍中、戦死。妻に口述筆記させてきた{信界建現}も終刊し、

日米開戦・・・1941＝71歳：生まれ育った西源寺住職のまま、没した。